

国立研究開発法人科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

科学技術コミュニケーション推進事業「ネットワーク形成先進的科学館連携型」
平成 22 年度採択企画
最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名 科学するところの伝達とはぐくみ-日常的な科学フォーラムの創成に向けて-
2. 提案機関 千葉市科学館 指定管理者 トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体

3. 企画の概要

- (1) 先進的科学研究の内容を市民に広く伝える、講演会、科学実験教室、見学会等の開催
- (2) 社会科学的な視点、科学の基礎の面白さを知る仕掛けもいれて、現代の先進科学の意味をも考える、市民向けの対話型、双方向型の講座の開催
- (3) これからの科学を担う子供たちに、数多くの基本的な自然現象を理解するための、科学教室、数学教室、教員の研修会の開催

いずれも、千葉大学、放射線医学総合研究所などの科学館を取り巻く大学、研究所、博物館、NPO 法人のほか、市および県の教育委員会、学校、産業界とのネットワークの形成が重要な役割を占める。(3) では、子どものレベルを意識した科学教室ばかりでなく、先進的なテーマの研究者を頻繁に招き、先進科学の伝達を軸にすえた科学教室などを行うと同時に、研究者にはわくわく・ドキドキなど「科学するところ」の体験談を語っていただく。新規性・新奇性を意図した事業の幅広い展開を計りつつ、科学館とそれらの機関の連携を拡大・深化させる。そして、(1)－(3)をカバーするイベントを毎年開催し、市の「科学都市ちば」構築の戦略とも密接につながって、市を挙げての行事「千葉市科学フェスタ」をこの事業の目玉の一つとして実施し、それを永続的なものに成長させる。

さらに教員の教育力の向上や学校の教育の質の向上にも力を注ぐ。ジャーナリズムによるとりあげも大いに働きかける予定である。このような多様な取り組みを経て、地域の科学リテラシー涵養活動に寄与し、取り組み事例の普及にも努める。

4. 最終ヒアリング結果総合所見

- ・計画は達成され、科学館を拠点とした地域ネットワークの定着・継続・発展が期待できる。

「科学都市ちば」の構想実現に向けて科学体験の機会を質および量ともに市民に提供したことは評価できる。支援で根付いた「ちば生きもの科学クラブ」やほか多数の活動を継続させ発展させていくことを期待する。今後、地元企業と連携し「千葉市科学フェスタ」を地域のシンボリックイベントとしてさらに発展させていくことを切望する。

以上